

## 平成 30 年度 駒沢中学校関係者評価委員会 報告書

平成 30 年度駒沢中学校関係者評価委員会で実施した学校関係者評価の結果及び提言を、次のとおりご報告いたします。

### 【平成 30 年度学校関係者評価】

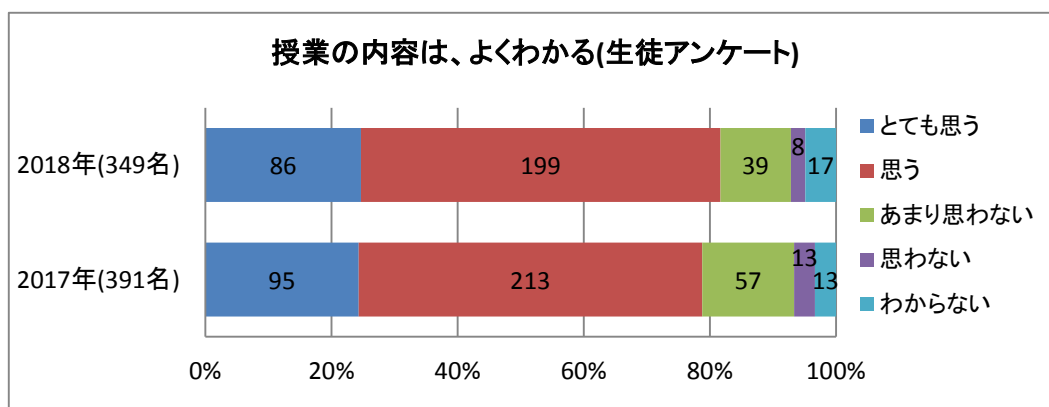
□ アンケート実施期間 平成 30 年 10 月 5 日～11 月 5 日

□ 回収数

	生徒	保護者	地域の方
配布数(人)	378	356(家庭数)	35
回収数(人)	350	269	20
回収率	92.6%	75.6%	57.1%

### 1. 学習指導について

学習指導に関する項目では、生徒アンケート「授業の内容はよくわかる」の肯定的評価（とても思う、思う）が昨年度の 78.8%から 81.7%と上昇し、依然として高い数値を示している。一方、否定的評価（あまり思わない、思わない）が 13.5%（47 人）と昨年度の 17.9%（70 人）から大幅に減少している。また「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫し、わかりやすい授業をしている」という肯定的評価も 82.0%と、高い評価を示している。否定的評価も 12.2%(43 人)と昨年度 14.4%（56 人）から減少している。これらのことは、先生方の自己評価「指導目標、指導内容を明確にして指導計画を作成している」「目標・内容を明確にして、計画的に授業が進められている」「学力調査の結果の分析や指導方法の工夫・改善を図るなど、積極的に授業改善に取り入れている」などの学習指導に関する項目の肯定的評価がほぼ 100%に達していることから、先生方の学習指導に対する改善努力の成果の表れと考えたい。



評価については、「通知表の評価は納得できる」の生徒の肯定的評価は全体で 83.2%と昨年度の 77.4%より 5.8 ポイント上昇しているとともに、年々上昇傾向にある。学年別にみると昨年度までは学年が上がるにつれて肯定的評価が低くなる傾向があったが、今年度は 1 年生 83.6%、2 年生 84.3%、3 年生 82.1%と、改善の様子が見られる。このことは、学校としてよりよい評価を行うとともに、各々の生徒に対して評価結果を生徒の学習指導にきめこまかく有効活用していることの表れと考えたい。しかしながら評価に関する保護者アンケートでは、

肯定的評価 1 年生 80.8%、2 年生 77.9%、3 年生 71.7%と学年による差異がみられる。このことは、保護者にとって進学が近づくにつれて内申点への関心がより高まることがひとつの要因と考えられるが、学校として、評価のもつ意味、評価と評定の関連性等を生徒及び保護者に対し、これからもていねいに且つ持続的に説明していくとともに、各々の生徒に向けては、評価結果に対する賞賛と励ましをきめ細かく行っていくことが大切であると考えている。

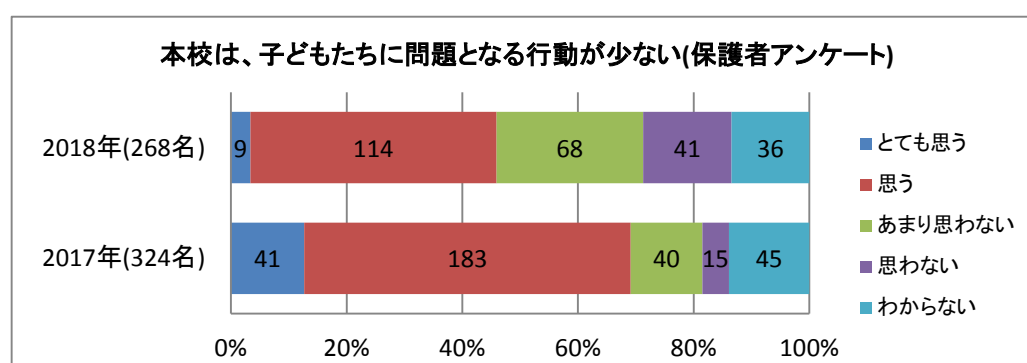
本校では今年度より「NIE（教育に新聞を）タイム」などを通して新聞を活用した教育を実施しているが、「NIE タイムを通して社会の出来事に対して関心が深まった」という問に対する生徒の肯定的評価が 54.6%と、残念ながら未だ高いとはいえない。社会への関心を深めたり、読解力や表現力などの日本語力を育むためにも大切な教育活動であると思われるので、今後のより充実した指導の継続を期待したい。

## 2. 生活指導について

生徒アンケート「先生に指導されたことは、納得できる」の肯定的評価 77.9%は、昨年度より 4.4 ポイント下がった。特に 2 年生の肯定的評価は 67.9%と低いことから、先生方は、生徒とよりよい信頼関係を築くとともに、指導のあり方についても見直ししながら進めていただきたい。

保護者アンケート「本校は、子どもたちに問題となる行動が少ない」の肯定的評価は 45.9%で、昨年度より 23.2 ポイント下がった。保護者に先生方の生徒への生活指導の努力があまり理解されていないように思われる。しかし、生徒アンケート「私は学校のきまりを守って行動している」の肯定的評価は 91.1%で、昨年度とほぼ同様の高い評価である。このことから、生徒の学校内の行動の自己評価と学校外での行動を保護者が見る目の違いがある。先生方は、生徒のあらゆる情報を共有し、より一層一丸となって生活指導を行うようお願いしたい。なお、地域アンケート「通学している子どもたちは、社会のルールを守っている」の肯定的評価は 95.0%と高い。

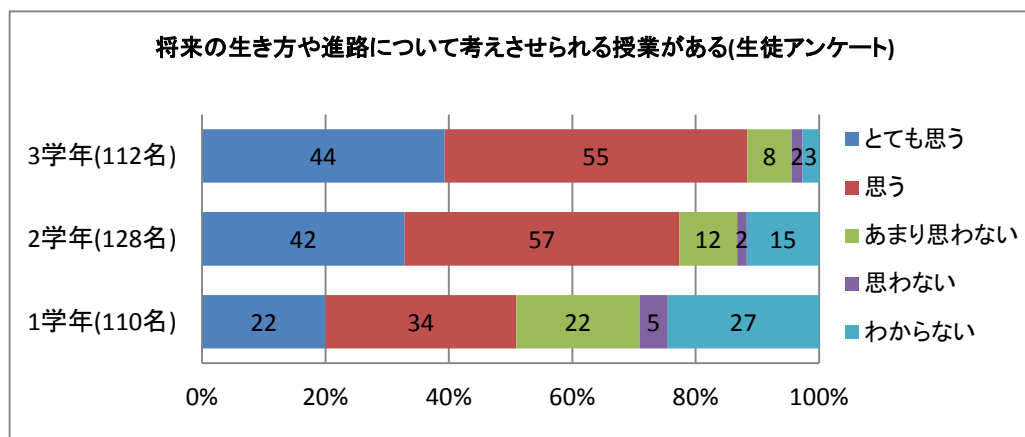
保護者アンケート「本校の教員には、子どものことの相談をしやすい」の肯定的評価 66.9%は、昨年度とほぼ同様の評価である。ただ、2 年生が 59.6%、3 年生が 65.2%と評価が低い。このことから、先生方は、今まで以上に保護者のどのような相談にも親身に対応していただきたい。



## 3. 進路指導について

生徒アンケート「将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある」の肯定的評価は、昨年度はすべての学年で 80%を超えていたが、今年度は 1 年生が 50.9%と大幅に低下している。また、1 年生の肯定的評価は、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分にある」で 44.5%、「進路に関する情報が十分に提供されている」41.8%と低い。昨年度は、1 年生の進路指導の学習を朝学習の時間を利用して年間を通じて行っていたが、細切れになることを懸念し

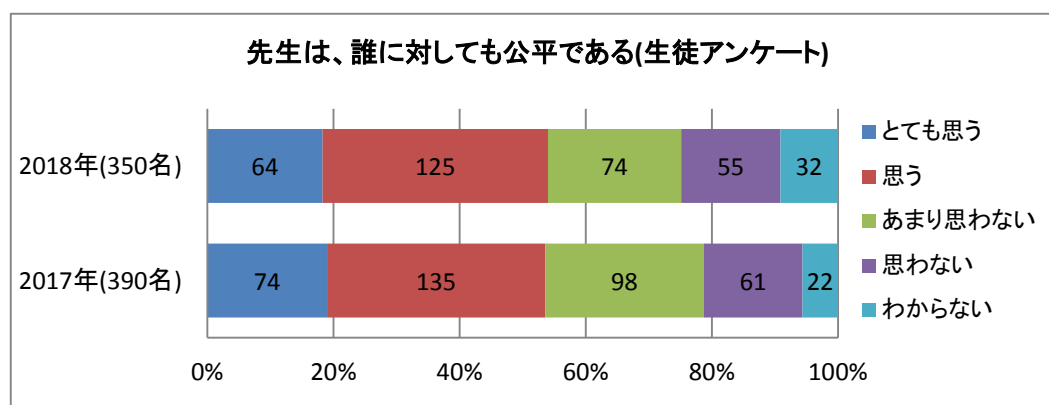
て今年度はまとまった授業時間を確保する形に変更され、その実施が関係者評価アンケートの実施後に予定されていたことが影響しているということである。授業実施形態の変更が、生徒の学習効果や満足度の向上につながっているか検証をお願いしたい。



保護者アンケート「本校は、子どもに将来の生き方や進路について考えさせる授業が充実している」の肯定的評価は 67.7%で、昨年度 67.9%と変わらず、「本校の教員は、親身になって進路の相談にのっている」も肯定的評価は 60.1%で、昨年度 60.5%とほぼ変わらない。「本校から、進路について十分な情報が提供されている」肯定的評価 55.0%（昨年度 58.0%）、「本校は、進路について保護者が相談する機会が提供されている」肯定的評価は 66.4%（昨年度 70.4%）と、昨年度より下がっているが、誤差の範囲と言えよう。保護者には学校の進路指導についての方針が昨年度と同様に伝わっていると考えられるが、1年生・2年生の保護者の「本校から、進路について十分な情報が提供されている」の肯定的評価がどちらも 50%弱であるので、評価を上げる対応をお願いしたい。

#### 4. 教職員について

生徒アンケート「先生はいつも熱心に指導している」の肯定的評価は 76.3%で、昨年度同様の高い評価を得ている。また、「先生はよくわたしの話を聞いてくれる」の肯定的評価も 72.9%の評価を得ている。「先生は誰に対しても公平である」に対しては、否定的評価が昨年度の 40.7%から今年度は 36.8%と 3.9 ポイント下がり、改善されている。先生方の日々の取り組みの成果が生徒に理解されていると思われるが、なお一層の改善に取り組んでいただきたい。



保護者アンケートでは、「本校の教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」に対して肯定的評価は 78.1%であり、昨年度と同様で安定している。また「本校の教職員は、社会人としてのマナーを身につけている」に対しても肯定的評価は 81.2%と高く、昨年度より 3 ポイント上が

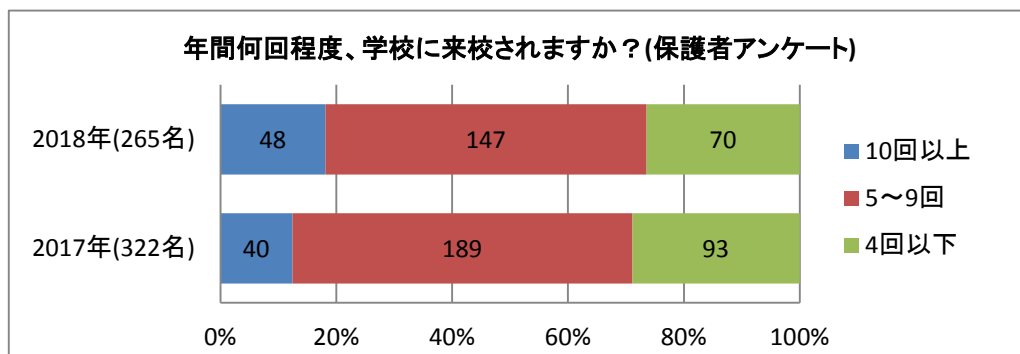
っている。どちらも学年別で見ると多少の差はあるものの、保護者会や行事等で先生方の日々の努力が保護者に伝わっていると思われる。今後もさらなる努力を期待したい。

## 5. 総括

駒沢中学校は昨年 70 周年を迎えた歴史のある中学校であり、地域と共存して信頼されている。これは長年、校長、副校長をはじめ、全教職員の日ごろの熱心な教育活動の取り組みの成果として敬意を表したい。

学校関係者評価アンケート調査では、全項目の肯定的評価(わからないを除く)の平均は、生徒アンケート(29 項目)が昨年 77.5%から 80.6%に上昇しているが、各項目では、昨年より明確に上がったのは 10 項目(34.5%)である。保護者アンケート(47 項目)は、80.6%から 76.9%に支持が下がり、明確に上がったのは 8 項目(17.0%)のみであった。その中で、今まで見られなかった「本校は、子どもたちに問題行動が少ない」の否定的評価が昨年度の 19.7%から 47.0%に増えたのが今年度の特徴である。地域アンケート(24 項目)は、93.7%から 91.0%に減少しているが、高い支持の中にある。

その他保護者アンケートの独自項目では、「学校に来校する回数」は、「10 回以上」12.4%から 18.1%に、「5～9 回」58.7%から 55.5%、「4 回以下」は 28.9%から 26.4%になり全体として、昨年度より来校回数が増えている。「学校ホームページの閲覧」では、「よく見る」19.3%から 20.7%に、「時々見る」70.7%から 65.0%に、「全く見たことがないは」10.0%から 14.3%に増加し、全体としては 84.0%から 80.3%と減少している。



今年度の改善の努力課題のひとつであった保護者からのアンケート回収率の改善は、以前、平成 27 年度に 66.7%の回収率に低下した反省から、平成 28 年度は 88.3%と上げたが、平成 29 年度は 79.4%、今年度は 75.6%と 2 年続けて回収率が再び下がり今年度の目標達成に至らなかった。これ以上の低下を避けるために保護者への協力を促す対応の必要が求められる。

全体では、昨年度に比べて生徒、保護者から大きく支持が上がった項目は少なかったが、しかし、毎年度変化する高い支持の中の増減である。また、今年度駒沢中学校では生徒指導上の課題が報告され、先生方のご苦勞が垣間見られるが、先生方の真摯な取り組みに感謝し、過重労働時間になりやすい状況にある先生方の実情を学校関係者も理解し、協力することが必要である。

## 6. 更なる改善の努力課題

- (1) 保護者および地域の方々のアンケート回収率を高める努力を引き続きお願いしたい。
- (2) 先生方のご苦勞を斟酌しながらも、生徒指導上の課題を克服していただきたい。
- (3) 学校教育の一層の理解と協力を得るために、広報・宣伝活動を充実させるようお願いしたい。